



〒014-0054  
 大仙市大曲金谷町26-9  
 TEL:0187-63-2257  
 FAX:0187-62-3434  
<http://www.daino-h.akita-pref.ed.jp>



キャッチボール  
 ~地域に開かれた農場を目指して~

農場長(佐々木 惇)より

~冬でも農場は花ざかり~

暖冬・暖冬と言われ続けてきましたが、気がつけば雪寄せのために腰をさする日々です。雪に包まれた農場の温室では、サイネリアや洋ランが今花ざかりです。雪の中大変でしょうが、是非、鑑賞にいらしてください。もうすぐ3月、雪に埋もれつつも、農場は春に向けて歩み出しています。

水田部門

(担当: 藤井亨、高橋寿徳、佐々木尚人、黒田一久)

育苗に使用する床土を、肥料入りロックウールマット(人工成型培地)へ変更することにしました。従来の土に比べ多少のコストはかかりますが、作業の省力化を実現することができます。具体的には、田植え時の苗箱の重さが従来の70%程度になり苗運搬が楽になる他、床土の運搬や肥料の混合作業等を省略することができます。初めての試みで播種時の灌水量やプール育苗への対応等に課題もありますが、これまでと変わらない健苗の育成に努めていきます。



小家畜部門



(担当: 田口健一、佐藤晴輝)

現在、3月の新規ひなの導入に向けての準備をしているため、卵の数が少なくなっております。本校の卵を楽しむには大変ご迷惑をおかけしております。数は少ないですが、週末には農業科学館に出せるだけは準備していますのでご利用いただければと思います。新規ひなについては、3月か4月のキャッチボールで報告いたします。

中家畜部門



(担当: 守屋拓、佐藤潤之介)  
 「ゆく豚くる豚」

9月生まれのブタたちは3月の出荷にむけてすくすく成長しています。現在、体重は80kgで(2/10時点)1週間に5~6kgのペースで体重を増やし、出荷時には110kg程度に仕上げます。

また、3月は分娩と新規母豚の導入が予定されております。3月は豚舎内でも豚事異動が活発に行われます。

花卉部門



(担当: 平塚祥広、山代和也)

温室内では卒業式に向けてサイネリアが開花中です。卒業式会場には卒業生と同じ数だけのサイネリアが飾られます。(意外と知らない人が多いです。)今年も171名。そして171鉢の色彩が会場を彩る予定です。



大家畜部門



(担当: 佐々木惇、佐藤晴輝)

2月9日(火)に、大農昌(だいのうまさし)をあきた総合家畜市場へ出荷しました。日齢(生まれてからの日数)は292日、体重は263kg、体高は117cmでした。当日は、畜産を学んでいる生徒5人が、子牛の誘導や補助を行い、セリの様子も見学しました。思ったよりも生育が良くなく、販売価格は……。次回のセリに向けて、いっぱい餌を与えて立派な子牛に育てていきたいと思ひます。



## 果樹部門



(担当：佐々木孝之、佐藤農)

少雪のため、うさぎが遊びに(かじりに)来ていません。剪定も順調に行われており、後はナシ・モモを残すだけとなりました。今年も昨年同様、おいしい果実が実りますように...

## 野菜部門



(担当：古戸毅、和泉有紗、富樫久雄)

野菜部門では冬場、ハウレンソウを栽培します。品種は葉軸が太く多収性で、べと病にも強い交配種の「トラッド7(セブン)」です。種子は誤用や劣化等を防ぐため緑色にコーティングされています。ハウス内に暖房を施さない「寒締め」により、ハウレンソウ自身が凍結を避けるために葉身が締まって肉厚になり、葉軸も太く充実して甘味が増すため食べ応えがあります。学校周辺の量販店より1袋の量が多いこともあり、実習等で生徒が販売するとすぐに売り切れます。ハウレンソウはコマツナのようなアブラナ科ではなく、根元がほんのりと赤いアカザ科に属する葉菜類です。来年も楽しみにして下さい。

(緑色にコーティング)

(ハウス内は8)

(厚い葉身、太い葉柄)



## 食品加工部門



(担当：伊藤寿人、三嶋登忍)

「ブルーベリーのギモーブ(生マシュマロ)の商品化に取り組む」

大仙地域ブルーベリー農家・大仙地域振興局・大仙農業近代化ゼミナールと大曲農業高校食品加工部門が連携してブルーベリーのギモーブを開発しました。近い将来等地域のブルーベリーは生産過剰の状況になるようです。冷凍ブルーベリーを使った新商品開発に本校生徒が挑戦し、一年間取り組み新商品を開発しました。

材料は大仙産冷凍ブルーベリー、グラニュー糖、板ゼラチンなどです。材料を火にかけ溶かし、泡立て、冷やすわけですが、溶かし方・泡立てには熟練の技術が必要なようです。試作を繰り返し、農家や地域振興局、農近ゼミナール等で試食していただき、昨年12月に完成しました。農業の6次産業化に高校生としてできることに精一杯頑張ってきました。高校生らしい斬新なアイデアも取り入れています。レシピは農家にお伝えしましたので、近い将来、道の駅等で販売されることを楽しみにしております。



## 生物工学部門



(担当：大沼克彦、大坂淳、照井豊和、小林和成)



生物工学の温室では、今年もたくさんの蘭の花が咲いています。

総合実習で多くの生徒が手をかけて大事に育てた成果です。学校行事で皆さんにご披露できればと思っています。

楽しみにしててください。

## 編集後記



今年度一年間、ご愛読ありがとうございました。農場で巻き起こる様々なドラマを、来年度はもっともっと、色々な形でお伝えできればと思います。来年度に向けて策を練ります。今後ご期待ください!